

知らないことを知る喜び

数回懇談したことのある若者から、次のようなメールが入った。

【 以前、先生とお話した時、豊かに生きるためには、確か二つ言われたと思いますが、人との係わり合いを大切にすることと、もう一つを教えていただけないでしょうか。ふと先生のお話を思い出したので。

自分を振り返って、人と係わり合いがない時期ほどと苦しかったと回想していた時に先生の言葉が脳裏に甦りました。お願いします。 】

差し当たって、次のように返信した。

【 「生きる喜び ・人と係わり合う喜び ・知らないことを知る喜び」ですから、もう一つというのは、「知らないことを知る喜び」で、言い換えれば「課題解決の喜び」とも云えまし、喜びを得るプロセスでは「楽しんでいる」とも云えます。

乳幼児が物を舐め、触り、いじったりするのも「これは何だろう？」と知りたいからです。

小、中、高生が一生懸命本を読み、勉強するのも、知る喜びがあるからですし、遊びの中に彼らなりの課題解決の喜びを見つけて遊びを楽しんでいますし、君のように大学で学究するのも知る喜びがあるからだと思います。

仕事をするのも、仕事をやり遂げる（課題を解決する）という喜びがあるからだとも解釈できます。

趣味等もそれにその人なりの課題解決の喜び（楽しみ）があるからこそだと解釈できます。

子どもであれ大人であれスポーツに挑むのも、その人なりの課題を見つけ達成する（記録等をのばす）喜びがあるからこそ、スポーツにチャレンジするのだと解釈できます。

一方、知らないことを知るということは、知識が増えることであり、知識が増すことは思考の手段が増すことであり、自らの生き方の選択肢が増えることでもあります。

どう思考し選択するかということは知恵がつくことであり、つまり、生きることの豊かに繋がることではないかと思っています。

ただ、自分の喜び、楽しみのためなら何をしてもいいのか？という危惧が生じますので、「人と係わり合う喜び」が大事になる訳です。

以上のようなことから、「生きる喜び ・人と係わり合う喜び ・知らないことを知る喜び」と、自分なりに整理・解釈している訳です。

「人と係わり合う喜び」については、「コミュニケーションの仕組み（HP「雑学 BN」の講義等関係（IV）、2009.01.23.）」を参照ください。 】